

■発行■
2006年7月

ファルマバレーセンター
E-Mail mail@fuji-pvc.jp
URL www.fuji-pvc.jp

「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」



〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055-980-6333 FAX055-980-6320
県立静岡がんセンター研究所1階

富士山麓ファルマバレー バイオネットワーク始動!



■富士山麓を舞台にバイオ関連クラスター形成への取り組みが始まる(右下:運営委員会の様子)

富士山麓地域におけるバイオ関連産業の育成を図るため、バイオ関連企業や研究機関、支援機関などによる人的ネットワークを構築する「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク」が始動した。コーディネーターによる企業訪問やバイオ技術のシーズ・ニーズ発表会、人材育成のための各種セミナーを通じて、バイオ関連産業クラスターの形成を目指す。

県東部、富士山麓地域には、国立遺伝学研究所、県立静岡がんセンター、同研究所をはじめ、大学、高専、公設研究機関など多くのバイオ関連の研究機関が存在する。これら研究機関、研究者と地元企業などとの人的ネットワークの形成と、バイオ産業を支える人材の育成を通じて、バイオ分野での新事業の創出、ベンチャー企業の育成を行う「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク事業」がスタートした。

この事業は、経済産業省が推進する産業クラスター計画「バイオベンチャーの育成」プロジェクトの一環で、静岡富士山麓地域は、かずさ(千葉県)、つくば(茨城県)、横浜・神奈川(神奈川県)の3つの拠点をつなぐ首都圏バイオ・ゲノムベンチャーネットワークの4番目の拠点として18年度に採択された。

初年度に実施する事業は、大きく4つ。

- 1つ目は、バイオ関連の研究者、企業のネットワーク化。
- 2つ目は、産学官連携の促進(マッチング)を目的とした、バイオ技術シーズ・ニーズ発表会の開催。
- 3つ目は、地域コーディネーター活動。バイオ関連分野に精通したコーディネーターによる企業などへの訪問を通じて、技術シーズ・ニーズ、課題などを掘り起こし、産学官連携や企業間連携に向けた助言やベンチャー企業の育成支援を行う。
- 4つ目は、バイオ関連分野の人材育成。すでにバイオインフォマティクスセミナー(7月8日開講)やバイオMOT(技術経営)セミナー(9月30日開講)の開催が決定している。

これらの事業を通して、バイオ関連産業クラスターの形成を目指していく。

■ホームページ: <http://www.fuji-pvc.jp/bio/>



■熱心にトレーニングにはげむ参加者（富士見学園）

全国に先駆けた マシントレーニング

事業は、知的障害者更生施設「静岡県立富士見学園」の17～22歳の男女12人を対象に週2回、3ヶ月半にわたり行った。筋トレマシン3種、認知動作型トレーニングマシン（KKマシン）2種を使い、開始前、中間、終了時に運動面、生活面での向上が見られたかどうかについて調査した。

運動面を担当した県総合健康センター健康科学課長兼健康増進課長の藤田信さんは「マシンを利用した知的障害者のトレーニングは全国的に見ても先駆的な取り組み」と語る。体脂肪量、体脂肪率、ウエスト・ヒップ比に変化が見られたほか、10m歩行や立位バランステストのタイム向上、左右脚の筋肉量の増加が認められた。歩行の様子はビデオで撮影し、動作を解析。トレーニング開始前に見られたつま先同士がぶつかる、足を引きずるといった“歩行の癖”が改善され、手の振りや歩幅が広がった、姿勢が

よくなった、かかとから着地するようになったなどの成果が出たという。同センターの鈴鹿和子さんは「KKマシンが老人や若者、またどのような健康状態の人に使えるのか検証が必要。今回の事業では一部ではあるが、知的障害者に対する効果の検証ができたのではないかと語る。

運動面、生活面の質 向上に期待

生活面でも変化が見られた。富士見学園の明石武彦園長は「他人とのコミュニケーションを取りにくい彼らが、トレーナーの方々とマンツーマンで触れ合う中で信頼関係を構築できたのが大きな成果」と語る。馴れないマシントレーニングも、こうした信頼関係の中で徐々に楽しんでできる時間に変化していったという。中には、夜ぐっすり眠れるようになったり、普段の運動能力が向上したりした人もいた。同園は一人ひとりについて行動、睡眠、作業などの項目を記録、どのような変

知的障害者更生施設で、KKマシン 使い歩行能力向上図る

東大大学院・客員教授で、しずおか健康長寿財団の小林寛道副理事長が提唱するKKウエルネストレーニングシステム。歩行や運動に重要な体幹深部筋（大腰筋）を効率的に鍛え、運動能力の質向上を目指す新しい理論だ。すでに県では、高齢者の歩行能力向上の研究や運動選手のトレーニングに導入し、効果を上げている。

このたび、県総合健康センターは平成17年度健康筋力づくり推進事業の一環として、知的障害者の歩行能力向上を目的にKKマシンを使った研究を行った。

化があったかの分析を行う予定だ。

担当者の渡部千佳子さんは「どの方も歩く姿勢は変わったと思う。トレーニングを開始した頃はトレーナーから話しかけられても返事ができなかったが、最後の頃になると自分の体調を言葉やゼスチャーで伝えられるようになった」という。

一方で、課題も見えてきた。「効果を調べるための、知的障害者向けの運動能力評価表が必要。タイムや柔軟性を見るものでなく、歩き方が変わったことではいかに生活の面でいい影響が出てきたかが大切だ」（鈴鹿さん）。また、マシン導入やトレーナーの確保、受け入れ施設側の準備など、設備面、人材面での負担が大きい。「運動、生活両面に良い変化が見られたのだから、環境さえ整えば継続したい。例えば、設備の整った総合健康センターのような場所が市内に数カ所あれば」と明石園長は語る。

今後、県では同様の事業を県内の別の知的障害者更生施設でも行う予定だ。



かかりつけ湯2年目の挑戦

「良質な温泉」と「おもてなし」で健康増進と癒しを提供するかかりつけ湯。初年度にあたる昨年は、新聞・ラジオ、雑誌などへの広告掲載、パンフレットやホームページの作成などを通じて主に宣伝活動に力を入れた。時代のニーズに合致した新しい試みに、首都圏のメディアや大手旅行代理店から熱い注目を浴びた。

活動2年目の今年、かかりつけ湯が

目標とする多様性と伊豆全域のネットワーク化をさらに推し進めるため、ファルマバレーセンターは追加募集を行った。伊豆全域から30を越える温泉宿泊施設が応募、かかりつけ湯の理念に賛同し、健康プログラムや癒しの提供、健康に良い食事の提供、平日連泊が可能な料金設定のうち1つ以上の特徴を持つ22の施設が新たに選ばれた。

本年度は引き続き広報宣伝を行う一方、各施設の受入体制の強化に力を入れる。県が取り組む伊豆ブランド創生事業にもエントリーし、商品造成や専門性を高める講習会などを通じて、新たな伊豆ブランドとしてのオリジナリティの追求を図っていく。協議会代表の鈴木基文・船原館社長は「何を特徴とするかは宿ごとに違う。料理に特化したい宿には料理の勉強会、温泉プログラムを導入したい宿にはそれをテーマにしたセミナーなど、個々の取り組みを応援したい。この分野に関してはうちが日本一だという自信が持てれば、お客さんに必ず伝わる。そう

した意識がかかりつけ湯の施設全体に広まっていくことを期待したい」と語る。

新たに22施設が仲間入り

今回選定された宿は、ph値の高い温泉や、種類の違う源泉を2本持つ宿、14種類もの変わり風呂が楽しめる宿など、多くが温泉そのものにこだわりを持つ。また、女将自らが栄養士、あるいは料理長が専門技能士の資格を持ったり、温泉入浴指導員、温泉マイスターといった温泉の専門家が目立つのも今回の特徴。築300年の庄屋屋敷、1日1組限定のもてなしが味わえる宿、スポーツ施設が併設されていたり、バリアフリーに特化した宿など特徴を十分アピールできる宿が揃っている。今まで数が少なかった西伊豆地区が一気に5軒増えたのも大きな収穫。新・かかりつけ湯57施設の活動に期待したい。

■「かかりつけ湯」施設一覧 (<http://www.kakaritsukeyu.jp>) *印は新たに参加が決定した22施設。

施設名称	電話番号
民営国民宿舎 熱海ビレッジ	0557-81-8295
月の栖 熱海聚楽ホテル	0557-81-5181
熱海温泉 ホテル湯治館 そよ風	0557-81-1331
旅館 芳泉閣	0557-81-7624
熱海シーサイドスパ&リゾート	0557-82-8111
大成館	0557-68-2221
* 伊豆網代温泉 松風苑	0557-68-3151
青山やまと	0557-32-0300
伊東マンダリンホテル	0557-36-0011
旅館いな葉	0557-37-3178
サザンクロスリゾート&スパ	0557-45-1234
* ホテルラフォーレ伊東	0557-37-3133
* おし花の宿 遊季亭	0557-37-0114
* 陽気館	0557-37-3101
* 伊東大和館	0557-37-3100
* ホテルラヴィエ 川良	0557-37-8181
玉翠館	0557-23-2170
ゲストハウスつくし館	0557-23-0222
懐かしの自然湯 熱川温泉一柳閣	0557-23-1133

施設名称	電話番号
ホテルカターラ福島屋	0557-23-2222
* 熱川ハイツ	0557-23-2300
* 熱川プリンスホテル	0557-23-1234
* 熱川グリーンホテル粹光	0557-23-2345
稲取 銀水荘	0557-95-2211
* 旅館はまべ荘	0557-95-3620
菊水館	0558-32-1018
鉱石ミネラル嵐の湯 湯治の館	
河津七滝オートキャンプ場	0558-36-8080
クアハウス石橋旅館	0558-22-2222
飲泉・源泉かけ流しの宿 観音温泉	0558-28-1234
* 田舎リゾート「モミの木」	0558-28-1255
* 清流荘	0558-22-1361
* 下田大和館	0558-22-1000
伊古奈	0558-62-0030
* 休暇村 南伊豆	0558-62-0535
* 堂ヶ島アークユ三三四郎	0558-52-0346
* 堂ヶ島小松ビューホテル	0558-52-1101
* 堂ヶ島温泉ホテル	0558-52-0275

施設名称	電話番号
* 堂ヶ島 ニュー銀水	0558-52-2211
* 株式会社大沢温泉ホテル	0558-43-0121
湯治場21 大見山荘	0558-83-3034
貸切古民家 彩里(いろり)	0558-83-5550
ござんの湯	0558-83-0281
白壁荘	0558-85-0100
落合楼村上	0558-85-0014
船原館	0558-87-0711
ホテル ラフォーレ修善寺	0558-72-1664
YUTORIAN 修善寺ホテル	0558-72-2033
宙SORA 渡月荘金龍	0558-72-0601
* お宿 さかえ荘	0558-72-3434
* 御宿さか屋	0558-85-1100
* ホテルワイナリーヒル	0558-83-2310
大仁ホテル	0558-76-1111
招福の宿 蛸びすや	055-948-1541
ホテル サンバレー富士見	055-947-3100
ささや竹翠亭	055-948-1445
おおとり荘	055-948-1095
駒の湯 源泉荘	055-949-0309

伊豆の国市

「安全、安心、健康のまちづくり構想はじまる」



■生産者がわかる安心感と低価格が魅力の「まごころ市場」

合併後1年が経過した伊豆の国市で、新たなまちづくり構想が立ち上がった。日々の生活の中でおろそかになりがちな食生活を農業から見直すことで、“安全な食による健康を提供する地域づくり”を目指す。観光施設や一般家庭から出る食物残さ、酪農家から出る畜ふんを収集し、それから作られる有機堆肥を利用した安全な農作物を生産、市内の飲食店や旅館

などでメニューとして提供する試みだ。すでに農業生産者、観光事業者、民間企業、行政関係者をメンバーとする推進会議を発足。「農業」「観光」「環境」の各部門に分かれ、具体的な事業に向けた準備を進めている。ファルマバレープロジェクトのもと、食の安心、安全の確保を図るとともに、地域をになう子供たちに向けた食育の面でも期待が持たれている。

お問い合わせ ■伊豆の国市企画部 tel.055-948-1431

伊東市

「観光ホスピタリティ向上研修会を開催」



■大勢の人でにぎわう伊豆シャボテン・パークゴルフ場

健康保養地づくりを進める伊東市は、観光振興を図る上で最も重要な要素であり、サービスの原点である“訪れるお客様を温かくもてなす心＝ホスピタリティ”をテーマに、ファルマバレーセンターと共催で、「観光ホスピタリティの向上をめざして」と題する研修会を開催する。

講師に、伊豆シャボテン公園などグループ施設の再建を果たした株式会社サ

ボテンパークアンドリゾート取締役副社長・菊地勉氏を招き、健康保養地づくりプロジェクトに集結する事業者や市民団体を対象に、7月から11月まで5回シリーズで行う。

身近にある「成功体験」を学び、それぞれの企業活動に活用してもらうことで、地域としてのおもてなし・サービスの向上や魅力アップを目指す。

お問い合わせ ■伊東市企画部企画政策課 tel.0557-36-0111

プロジェクト推進に弾み——
ファルマバレープロジェクトチーム結成

■看板を手にする石川嘉延知事(左)と土居弘幸理事

県は、ファルマバレープロジェクトを戦略的に進めるための「ファルマバレープロジェクトチーム」を健康福祉部内に発足、4月3日、県庁西館4階に真新しい看板が掲げられた。石川嘉延知事は職員に向け「構想からプロジェクトの段階に移った。複眼的、水平的思考を持ちながら業務を進めてほしい」と訓示した。

彫刻家・流政之氏、
がんセンターに作品を寄贈

■「いーら」(左)と、陽だまりラウンジでの除幕式の様子(6月26日静岡がんセンター)

世界的な彫刻家・流政之氏が静岡がんセンターに作品を寄贈した。「いーら(EELA)」と名づけられたこの作品は、高さ約2.2m、重さ約1.7t。黒御影石を使い、角度によって祈りをささげる尼僧にも、子供を抱く母親にも見える。流氏は「この彫刻に触れて、癒しを感じてほしい」と語った。